

JACSHA (ジャクシャ) トーク&演奏会



Let's

相撲ミュージック

― 触れ太鼓隊へのお誘い ―



相撲をこよなく愛する
3人のちょっと変わった(?)作曲家ユニット
「日本相撲聞芸術作曲家協議会」

略してJACSHA(ジャクシャ)=鶴見幸代、野村誠、樫山智子が、
さいたまで「相撲を聞く」音楽プロジェクトを
始動します!

「相撲」を「聞く」+音楽を創る=JACSHA!?



日本に古くから伝わる神事・芸能・武芸である「相撲」。さいたま市岩槻区には全国的にも珍しい古式土俵入りの伝統が残っています。そんな相撲との縁が深いさいたまの人たちと一緒に、相撲を愛する作曲家ユニット「JACSHA」が、相撲という糸口から、過去・現在・未来のさいたまに音で触れる新作を「さいたまトリエンナーレ2016」に向けて創作します。そのオープニング・イベントとして2名の演奏家をゲストに招き、トーク&演奏会を4月2日(土)に岩槻本丸公民館で開催します。JACSHAメンバーである3人の作曲家の活動を紹介するほか、さいたまでのリサーチから生まれたJACSHAによる新曲を発表し、トリエンナーレに向けたプロジェクトの展望を語ります。

2016年4月2日[土] 開場 13:30 開演 14:00 (終演予定 16:00)

会場	岩槻本丸公民館 視聴覚ホール(さいたま市岩槻区本丸3-17-1)
出演者	日本相撲聞芸術作曲家協議会 JACSHA(鶴見幸代、野村誠、樫山智子)
ゲスト(予定)	田中悠美子(太棹三味線)、多井智紀(チェロ)
入場料	無料(予約不要、定員160名)
お問い合わせ	さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局(さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課トリエンナーレ係) ※受付時間 平日8:30~17:15 Tel:048-829-1225 Fax:048-829-1996 E-mail:bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

入場無料!



「さいたま触れ太鼓隊」参加者募集！

JACSHAと「相撲聞」音楽を創ろう！目指せ、秋の大「触れ太鼓」大会！

「さいたまトリエンナーレ2016」に向けて、5月から毎月1回程度ワークショップを行い、大相撲の呼出しさんや元力士から触れ太鼓や相撲甚句を教わり、その奥にある哲学や姿勢について考えながら、さいたまにあふれる音や音楽に耳を澄まして、さいたまの「相撲聞」音楽を創ります。9月30日(金)、10月1日(土)は、ともに創った音楽をまちに出て演奏する秋の大「触れ太鼓」大会(仮称)を予定。楽器が演奏できなくてもOK!ちょっとでも気になってしまうあなた、「さいたま触れ太鼓隊」のメンバーとなって、JACSHAと一緒に新しい音楽を発見しませんか? ※詳しい募集内容は、さいたまトリエンナーレ2016公式サイトおよび4月2日のトーク&演奏会で発表します。



さいたま市岩槻区でのリサーチ(2015年)

相撲豆知識

呼出しとは

大相撲の取組の際に力士の名前を呼び上げるほか、土俵作り、太鼓叩きなど、相撲の進行や裏方を担う役目のこと。

触れ太鼓とは

大相撲開幕の前日、呼出しが初日の取組を広く知らせる口上として、街を触れ回り叩く太鼓のこと。場所の開催を告げる江戸時代から続く大相撲の風物詩。触れ太鼓の独特のリズムは、呼出しの間で口伝によってつたえられている。

相撲甚句とは

相撲の世界に伝わる伝統的な文化のひとつで、大相撲などで力士が披露する七五調の俗謡のこと。

日本相撲聞芸術作曲家協議会 (Japan Association of Composers for Sumo Hearing Arts、略してJACSHA=ジャクシャ) とは

神事であり、芸能であり、スポーツであり、エンターテインメントであり、伝統であり、現代であり、文化であり、つまり智慧である相撲に耳を傾けること(相撲聞: すもうぶん)によって、新たな芸術を創造する作曲家の協議会。鶴見幸代、野村誠、樺山智子の3名を理事として2008年に設立。これまでに、「レッツ相撲ミュージック」(回向院)、「相撲聞芸術フォーラム」(谷中の家)、「相撲セミナー 相撲と芸術」(HAPS)、「相撲聞芸術のもくろみ」(アサヒ・アートスクエア)などを開催。



那覇ハーリー稽古 (2015年)



あいちトリエンナーレ2010 photo: 上田和則



土のつわもの2013(インド、西ベンガル) photo: prominority

鶴見幸代 TSURUMI Sachiyo

1976年、茨城県坂東市生まれ。沖縄県在住。作曲家。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。コンサート音楽、合唱、映画音楽などを手がける。メンバーである作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」が、佐治敬三賞受賞。鶴見幸代作品集CD「eu canto...」をリリース(fontec)。企画、参加活動に、バス旅行とコンサートのイベント「はどバス」、願いごとが歌になるカフェ「ササノハ」、アーティスト・イン・レジデンス「はまみくす」、エイブルアート・オンステージ「みつのうたでドントカ」、世田谷パブリックシアター「地域の物語ワークショップ」ほか多数。野村流古典音楽保存会、琉球民謡音楽協会会員。

野村誠 NOMURA Makoto

1968年生まれ。作曲家。京都大学理学部卒業。小学校で相撲部に、中学校で落語研究会に所属。横浜トリエンナーレ2005では「ズーラシアの音楽」を、福岡アジア美術トリエンナーレ2009で「お湯の音楽会」を、あいちトリエンナーレ2010で「プールの音楽会」を発表。千住だじやれ音楽祭ディレクターで、2014年に「千住の1010人」を発表し、1010人で演奏した。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクターとして、オーケストラの新たな可能性を探索中。CDに「ノムラノピアノ」(とんつーレコード)、「瓦の音楽」(淡路島アートセンター)などがある。著書に、「音楽の未来を作曲する」(晶文社)ほか多数。

樺山智子 MOMIYAMA Tomoko

1977年、福井生まれ。ニューヨーク/カリフォルニア育ち、東京在住の作曲家。スタンフォード大学にて作曲と文化心理学を二重専攻し卒業。文化庁新進芸術家派遣制度によりオランダ王立ハーグ音楽院作曲科留学。共同作曲作品「21世紀の子守唄」(金沢21世紀美術館)、観客参加型のツアー演劇「東京境界線紀行『ななつの大罪』」(マイノリタージュ・トラベル)、サウンド・インスタレーション「チャンタンの高原から」(インドEarth Art芸術祭)、マルチメディア・パフォーマンス「人類が絶滅するころに」(南アフリカUnyazi 電子音楽祭)、ラジオ作品「桜の木の下で、時をみた」(フランス国立視聴覚研究所INA-GRM)など、国内外の各地で分野を横断するサイトスペシフィックなプロジェクトを展開している。

さいたまトリエンナーレ2016とは

127万もの人々が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見!」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活都市ならではの魅力が見える、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちが発見する、多様で多彩なさいたま。その魅力あふれるさいたまに触れ、私たちのこれからの未来を発見していきます。

会 期 | 2016年9月24日(土)~12月11日(日)

主 催 | さいたまトリエンナーレ実行委員会

お問い合わせ |

さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局(さいたま市スポーツ文化局文化振興課トリエンナーレ係)

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

Tel: 048-829-1225 Fax: 048-829-1996 (受付時間 平日8:30~17:15)

Web: <http://saitamatriennale.jp> E-mail: bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

このチラシは4,000部作成し、1部あたりの作成費用は10円です。(この印刷物の作成費用には、企画・デザイン料が含まれます。)

